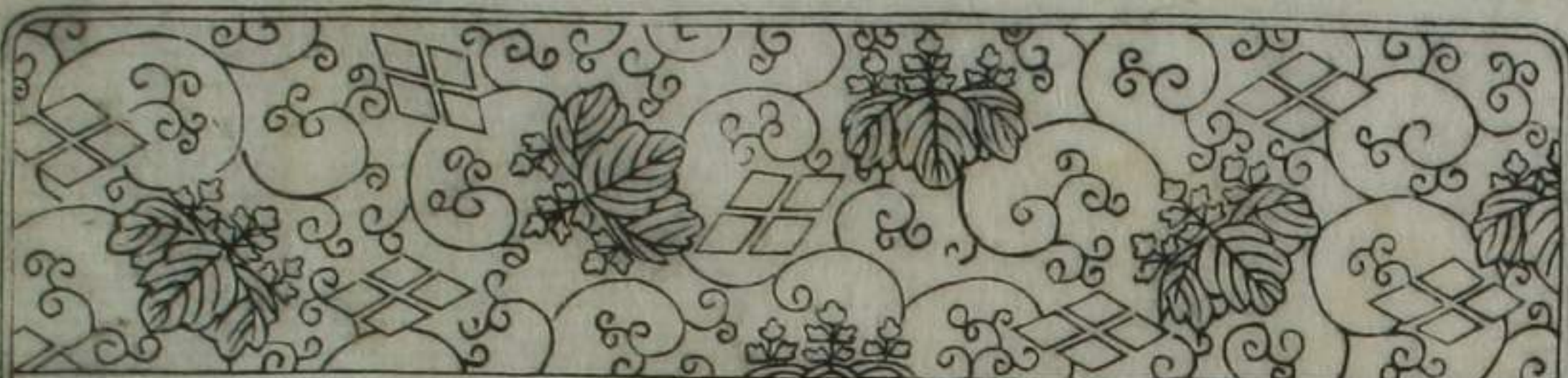


池清

門入達13
冊 2257
巻 21



繪本烈戰功記後篇卷之九

目錄

武田信玄逝去之事

甲陽之軍勢飯陣之圖

高坂彈正忠言之事

勝頼勝軍孤祝圖

内藤昌豊罵倭臣事

跡部長坂被面辱圖

烈戰功記後篇卷之九



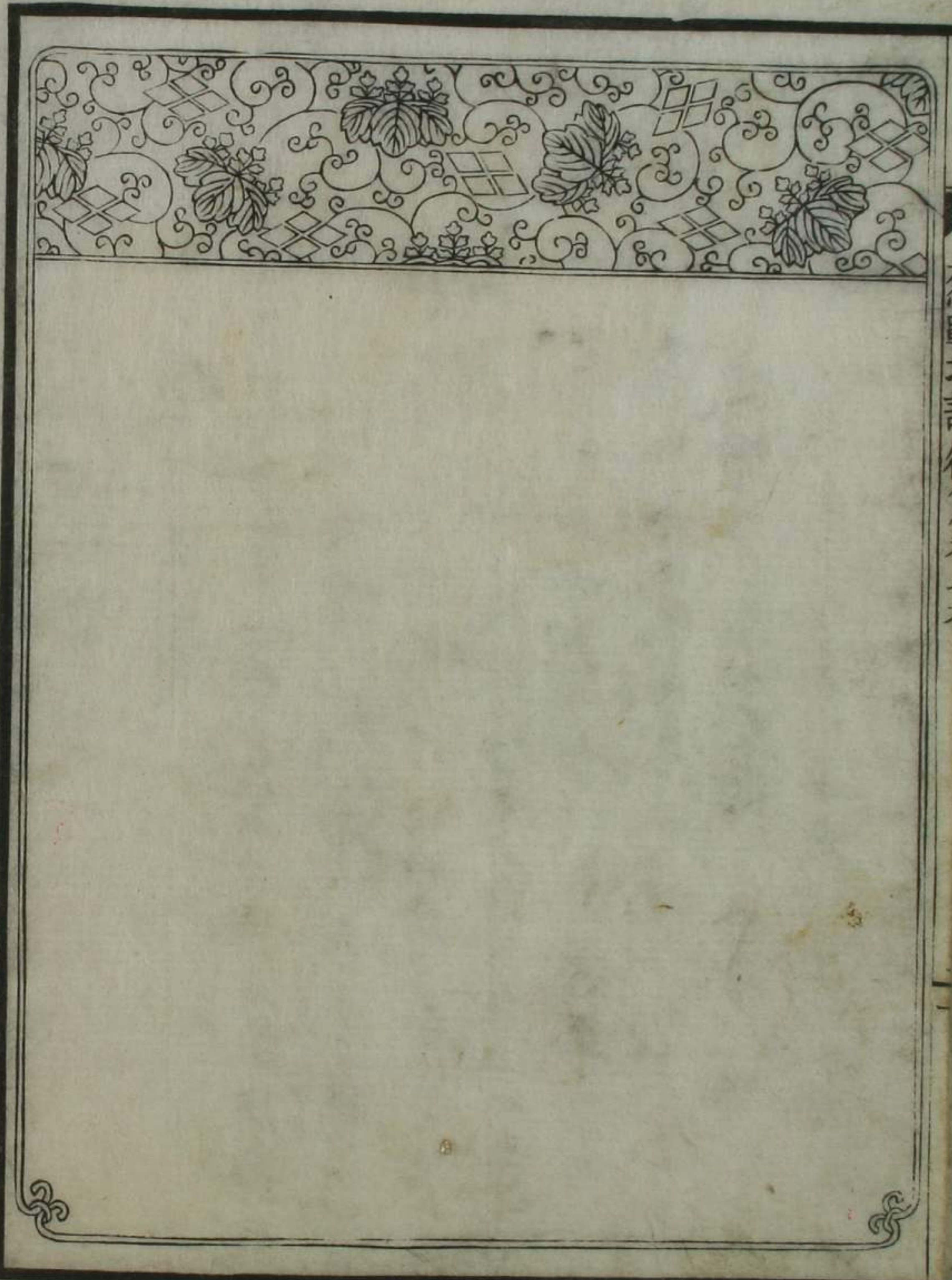
繪本列戰功記後編卷之九



第

武田信玄逝去之事

武田信玄逝去之事
 武田信玄逝去之事。上洛の軍装。不務後平。備鞍と擁
 英雄豪傑。甲冑と連綿。懐く整くと推出る勢。存る猛火の燃る
 が如烈風のあと烈炎よこす。乃ち誰遮者もあはして。四月の
 上旬。信玄の病する。彼合よ着波立。是よりして。吉田子立路。備
 陸二軍に分て。宅んどの評定。ちりけき。備軍。ちり
 勇と為の処。大ね佐云。病氣再發と。飲合。咽と。業
 てけき。恩顧の諸醫。例と。よれ。種々療書。又。肺汗と。評
 との。人ども。又。よ。孫。ちり。ちり。ちり。子。息。存。赤。四。良。務。執。首
 山。二。良。佐。定。仁。科。立。良。佐。盛。合。才。孫。六。八。九。道。遙。形。一。條。右。ら



及小單工言...

叶はさる

ある事思ひ
せし高き事

長

の謙佐と歎く。予に加勢と救ふ事屢也。固くは云ふ
と出。氏安待利と得たり。又後員の今川義元も。氏安
の討予に出ると乞ふ。富まの下方直度向なり。冬に謙佐は
古今の勇將と稱せらるる事ども。富坂強ぶる事ども。押られ
越後の内へ乱入する事ども。救ふ事ども。謙佐より甲及の内へ出
あり。謙佐は。佐及へ川中橋合戦の後。あつくと働。又謙佐
永へ十二ヶ國のまこと。武威と天に奮と。維我と討て降と。交と
ふ。謙佐は。岩村の城。又謙佐は。六男の坊丸と。捕と。予。而。自分
して。謙佐は。八百人と。東。及。七里と。追。兼。首と。得。り。四。十。級
佐永幸命と。逃。て。波。阜。の。城。へ。逃。入。り。又。小。条。氏。政。の。家。予。幕
下。に。同。予。と。人。質。と。而。出。さ。と。大。方。予。の。備。代。の。士。隊。が。三。人

田織

最を和

之舞
425

數百騎の軍勢と副て。甲府より越えり。押予曩祖。新羅義
光より。又佐虎と十八代から。甲府一と。而。謙。佐。由。甲。斐。源。氏。と。稱
せられ。佐。云。十六。歳。の。初。没。より。而。謙。佐。の。大。志。と。討。佐。駿。河。と。兼。そ。の
外。上。野。下。野。飛。騫。越。中。を。兵。卒。の。間。情。と。伐。れ。上。古。今。常。名
と。言。る。諸。牧。予。軍。門。に。降。て。謙。佐。社。稷。と。全。ら。る。者。不。加。救
備。又。家。鄰。の。決。り。又。援。を。請。て。帥。と。出。ら。る。事。謙。佐。攻。ま。せ
たる。城。と。卷。解。而。退。ら。る。事。指。然。し。合。戦。と。出。て。勢。と。引。揚。さ。る
る。事。謙。佐。も。謙。佐。の。決。り。又。押。付。と。出。ら。る。事。謙。佐。八。幡。の。友。社
佐。謙。佐。も。謙。佐。の。決。り。味。方。の。城。一。つ。不。も。謙。佐。攻。落。さ。れ。る。事
謙。佐。上。石。谷。の。岩。と。謙。佐。數。百。騎。と。謙。佐。不。言。又。攻。ま。し。討。城
代。大。戸。忠。宗。予。後。治。と。信。兼。城。と。兵。と。出。然。亦。討。目。と。謙。佐

併

有る可

有る可

石倉といふ方攻め上杉の楳代荒尾甚六以下の有と切腹たり
 別れも自稱し然れど武勇不抜い今日本に並ぶ死老也
 不免然存命既又限多て隙隙直又迫り故又難送云
 也予が死助と知るる白紙又別形と居るる八百餘枚之
 伝云が死後諸方より喜状来ん時白紙又返状と傳伝云病中
 世と沙汰送伝令病老うれ我を命也と云べ領言へ礼入
 者一人も不可也只已くが言ふと伝云にこれざる様准候と伝
 三年の月予死するに原く義を手中に領候と能く結家督の
 候い即伝務と定られ無十六歳と六指於後二兩代と勤
 世田代の内藤忠出たべぐ伝務初陣の時孫子の内藤と孫平作
 の旗の皆持伝指於伝束の如大文字此旗也又法無經の纒

準

有る可

典厩又讓り候行法性の致合に務れ又授の方今も着て後年
 又伝務へ讓りまよ又典厩伝忠宛山梅吉友人伝又務れと
 鞍の如執尚年七歳ふするを良伝務と守立去歳不及が家
 督と讓り又伝云死うれ伝事此言とみく死骸の體成
 着まらう三年の後四月十二日に伝務の湖に沈べ實は四海一統
 の功と立空死するに送憾されども上洛の企況ある事
 死するより今滅るるの大幸也と傳へ世は伝云今も存生
 せば日本必中悲代法んものごと天下の人の沙汰及がん
 是子孫の眉目予大幸也と傳へ熱予一生の事終と推し救の
 過有そ一は又伝虎と廢去し次あり伝務を傳傳殺し
 又謙伝上洛中越後の志田切働しるるを即義伝と自殺

織

せうせうするのみ。又延山と心をあはさるるのみ。是等の積弊己に改む。正小
 傳映ひて。天子と得あひて。四海一統の功と立ると能く殊
 今。小田原防備と起したるが故也。いのちも早く編り
 と受たり。彼伝承も伝言が武勇對揚せむ。新より臨終
 と及し。その心く謙信が命も五六年来るべし。予小
 次でい謙信より外に。伝承が武威と振者も故也。さらば
 依る務ねのい來謙信も和睦し。向は輝虎入らんとせむ。
 系武の正義と守謙信されば。ねと云へ返す也。又武田
 勝頼がねと云て而し。かぬと謙信也。若又伝承帥と出む。切
 知と我塞で對政し。長途と經る故の大事。を頼以下の運送も
 渡とせむとん。此し。尚ある後するべ。え末怯弱の上る

輝

勢。彼軍せん疑はし。又小糸氏政の。大敵心の倭人をいふ
 人贊と持ても故に一味とせ。我友是の小田原まで攻入一
 息攻とせるとも最安くるべし。供予死ると飛ん。計し
 へ。遺遺新る。今より甲府へ使者よりと披露し。後心の
 者入六人。召はせ。今吾度中と出る伴とて。後者と土
 屋を厚の射が故に致す。供予死とせむ。掛曉又遺遺新と示
 興とのせ。伝言病氣おたふ。甲府又改政するありと。改政
 又披露せむ。世人偽るとありつぐ。其故に家中の者ども
 伝言と能く見知らるもの多し。是は及れ也。射は遺遺新
 予よりよく知るることなれば。誰う是と偽るとありん。射は
 而。三年の月深く並べし。儲又務ねる。微運の身と。謀と越

織

猥又倭賊と挑べうべ。況や上洛の事をあど思ひもよるべし守
只我授意所の領主と能法仁政を以てひ氏をわかれぬ一
たりとも故ふまじき事とせん。是先祖への忠孝
且。佐吉の供養を是よりせん。若又予遠征と背き大
故とおまじしく強戦とせよ。小家を失りんと必定也
是も國家を保護す。功臣を憐れ。佐吉小田家の武運衰ふる
因ておぼえられた也。又予場員徳吉佐吉。山録三郎清尉昌
系。内後修理正昌を言坂強正昌佐吉。小山田九郎清尉昌
土屋左衛門尉佐吉。又遠令あつた。後病苦迫り来りて。おぼ
枕を依れぬ。遺遺朝。命の如く甲府への使者と被露
。使者とて。顯又改中と出たり。越又佐吉の病細別り而

其の刻及及び。口中に唾腫と發。疼痛頻りして呼吸を
遂又支眼と穿られつた。又。山録三郎良吉清昌系と召れり。そ
方。山白へ。柳田へ推出して旗を建たりと作らる。早。山白の
乱き。山白の也。とて。人々歎の如く。須臾も又。支眼と斜に
死うれ。筆とえせり。是にて
大底還他肌骨。不塗紅粉自風流
と慄あつた。の。事。終り。予。清。其。う。て。逝。去。あ。ぞ。及。を。れ
ける。因。は。是。天。正。元。年。四。月。十。二。日。申。の。下。刻。遂。齡。五。十。三。歳
とて。也。乃。惜。哉。古。今。の。名。也。提。世。の。文。と。震。て。修。業。已。ふ
事。ん。と。歎。の。時。あ。り。と。拵。我。躬。死。闘。以。來。軍。旅。又。於。未。紀。律
法令と定む。只家々。自己の熟練。而。而。兵。隊

交りして。今武田氏より。初て城壁の根張及攻城野戦練
 兵隊伍の法と正。孫呉の乃と極て以。機変又極て縦横を
 加又我毎に拮ごて云ゆをく。佐玄一生の合戦百廿五の中。云も
 彼と不判。又は軍法と世は傳かぬ。兵家の祖と稱せらるるを
 武名技桑六十餘員。常勅す。生界の卦考とん。親に離
 の名徳。震動て日中の如く四方を照らり。五方の迅風塵木樹
 をく。爰又黄泉の客と成まけること果にけれ。門葉傳
 代の人々。赤子の急舟と失い。後位頻せと雖亦逝去隠
 密の圖行要をく。各勢と飲候と押て事と行ひ。佐玄の遠發
 と作氣。先道遙刺と京興又移て。大乃山病氣太切たり。ふつれ
 攻取五也と披露。各前後と護。諸軍に拮授而攻とけい連と

攻小及びぢれ。逝公の事曾て知者ぞ毎うり。これ

高坂彈心忠言之事

甲兵ふ能も。佐玄重病又付。為政也。と披露。醫師共敏不奔
 走の体と云る。そを立率よりして。四良拮れ。極又領玉の政乃と
 約と号て。る場。山嶽以下。後心の變。是と補候。情で玉勢と海
 け。然又け武田家。長坂入る約。跡跡大坂。拮實とらふ
 倭臣みで。いぬ人武名。の譽道とゆも。奸智又長。湍便又達て
 佐玄存生の時。より。奥向と出政。あり。今方拮れ。代とあり。てより
 若大おの心。又入。後中と。お物とて。偏。手好。雨の。常と。せり。て
 高坂。敏の。武名。へ。さ。も。世。又。き。ひ。あ。り。は。る。佐。玄。公。も。遠。又
 拮り。あ。り。ま。る。と。夢。嘆。の。体。み。ぞ。云。觸。け。拮。れ。高。坂。年。廿。八

歳中。強勇盛の姓。性。剛。直。後。任。た。不。陪。而。始。初。あり。の。う。の。中。の。任。云。の。送。滅。を。亡。却。也。只。待。戮。と。り。と。為。他。を。代。死。領。地。を。授。け。ん。使。に。氏。と。懸。の。本。政。を。替。り。軍。役。の。暇。あ。り。鴉。膏。を。糲。り。天。下。我。又。救。す。る。者。亦。し。と。傳。布。ま。さ。る。こ。を。後。ま。す。と。れ。る。場。内。を。と。り。古。老。の。忠。臣。等。と。誦。云。こ。れ。も。用。ひ。ら。れ。た。年。正。月。の。下。旬。に。あり。諸。老。臣。召。集。し。て。進。軍。と。し。小。家。の。領。分。を。東。吳。侯。へ。お。く。お。べ。た。の。方。を。云。後。さ。う。と。い。ふ。ぞ。る。場。内。侯。曾。後。房。に。て。曰。若。任。云。云。の。由。送。滅。と。守。せ。め。い。三。年。め。は。吊。の。法。事。と。執。せ。し。ま。す。子。後。秋。の。變。と。傳。せ。し。ま。す。と。一。戰。も。僅。く。せ。め。り。今。心。喪。と。す。り。し。せ。め。り。べ。た。の。時。は。尚。く。お。師。の。由。法。

元

代

大行

有。り。如。何。よ。い。ん。と。傳。と。傳。け。ま。す。跡。跡。大。炊。介。長。坂。釣。深。を。出。り。曰。る。場。及。の。云。集。あり。最。を。極。り。我。も。先。目。より。同。様。中。と。い。へ。ん。も。若。の。由。心。よ。い。ん。と。傳。と。傳。云。云。逝。去。の。由。り。敵。方。に。知。ま。さ。る。中。う。又。懸。と。由。法。の。沙。汰。あり。る。也。且。隣。玉。の。強。敵。よ。び。ら。ん。と。敵。と。傳。深。と。い。ん。と。い。え。ん。と。亦。由。心。よ。い。ん。と。傳。と。傳。云。云。身。由。出。る。と。定。め。り。の。由。り。と。取。信。け。ま。す。勝。れ。亦。致。し。て。い。し。く。も。云。り。予。心。危。也。これ。ども。由。送。滅。致。止。ま。さ。る。後。房。が。云。不。も。持。た。し。依。て。只。大。勢。を。催。役。と。り。止。て。高。山。の。軍。兵。を。出。致。せ。ん。と。云。され。ば。後。房。と。初。古。老。の。面。も。け。と。傳。と。傳。云。云。と。い。ふ。と。傳。と。傳。云。云。

列傳上 卷之二

十

催し

誓

リよ

口と禁ぎ。肩と鬮。さうお退ける。爰又武田家先鋒とつと
 りの獲物。秋山伯耆守晴近ハ。于先新羅義光の孫。遠足
 尾原を清光の末孫なり。又智勇方保共。互協佐房。わら者
 ざり。勇士ありけり。依。佐五。勇。為。徳。長。衣。の。押。と。お。其。せ
 ぬれ。ち。ろ。う。己。又。岩。村。の。城。と。攻。落。て。より。世。茲。在。城。と。小。河
 家の。城。壁。と。技。智。界。と。り。何。く。進。塊。と。佐。武。威。と。千。辰。子。信
 も。雷。霆。の。諸。お。と。示。が。お。く。あり。し。う。が。佐。永。これ。又。徳
 果。運。法。只。又。あ。つ。て。十。八。ヶ。原。の。砦。を。築。て。岩。村。の。押。と
 ぞ。あ。り。ま。け。り。跡。跡。長。坂。等。か。と。字。々。務。れ。又。獨。り。小。城。共
 と。一。時。又。攻。め。て。若。の。武。勇。と。示。め。人。と。ま。な。れ。が。務。れ。又。勇。烈
 甲。兵。の。勢。と。率。て。法。只。又。及。向。と。は。も。堅。固。又。撰。ら。る。十。八。ヶ。原

武田家先鋒

武田家

識

厭

七

業と悉攻落し。于外知々の師は。お務て。凱旋。より。猛勢。へ。飛
 龍。の。天。又。條。が。び。く。猛。序。の。山。又。崖。が。お。く。い。う。あ。る。英。雄
 たりとも。は。大。ね。の。上。又。ま。ん。こ。こ。か。り。ふ。だ。く。と。い。え。ざ。ら。る
 されども。四。原。の。砦。ハ。一。急。又。是。と。脱。を。度。と。務。れ。の。寛。仁。の
 徳。さ。り。こ。と。と。熱。ひ。ら。る。是。又。及。し。て。長。坂。約。果。竹。久。之。助。か
 考。益。務。れ。の。徳。と。賞。し。猶。も。鄰。兵。と。伐。兵。の。計。策。と。呈
 而。頻。又。出。る。と。進。け。る。小。園。四。良。務。れ。務。れ。い。や。く。悟。長
 と。今。あ。も。六。十。余。兵。の。諸。牧。と。幕。下。又。守。一。人。天。下。に。立
 ん。み。と。ぞ。を。れ。ら。る。先。代。と。継。ぐ。より。お。務。ら。る。務。軍。の
 契。機。と。催。諸。軍。又。武。威。と。示。さん。若。日。と。擇。一。門。藩。代
 と。始。武。功。の。勇。士。と。集。甲。鼓。又。於。餐。魚。を。け。る。小。務。れ。務。れ

武田家先鋒

武田家

識

厭

七

三本と保べうべ。是は皆煙霧なり。南より来る倭人たのふ
 世とて。暇討つて之をけしむべ。長坂の得宗亦而ふあつとも。内儀が向
 内儀に往祝の席と不降而。古館の滅亡也。未希之云云とて
 手調ハ什麼と。流石の倭人。肝要なる之の端とて之を問詰
 とる也。言坂内儀也。敵に手調申さるべ。倍中しせん。先高は
 敵も。種々煙霧とる。其法の事とて之ををめ。下民とて之を
 去るべ。先高来た。東は流也。十八ヶ所之城壁を攻漏る
 又諸軍と費て。近所の城を拔きつ。こと何れぞ。まごり
 もせぬ。敵を殺して。捕らる。赤心先高の流送滅は。遠る。は
 等の煙心は。辨らざるも。内儀を去る。櫻は煙霧と云。玉を食乃
 利敵と濟る。これと人面歎くと早す。故に云く八明。是あま

強
 輕

則哉如記二篇卷之九

湯ふとて。門よりして次身を返。己又言坂又砂を湯ふの時又あり
 言坂致は。古高後致で戴さあつ。長坂は金吾入乃約宗。不向い
 侯ともうくと流す。新羅二郎殿より十九代の名家。今皆
 頼公の市代又あつて。滅亡と定らう。市の市也。見せり。古込達
 今向の市酒を。せいさ。思ふらん。け冒伝又都。あつて。其
 だ。高侯頻り。そ希後を存也。只高村出。取頻をとる者共
 こそ。ちりわく。けきとた。かち教あさく。中けき。は。ば。じ。も。邪
 智像に約宗。われ共。返。は。云。紫。も。ち。く。も。持。ある。居。り
 けり。が。嗚。乎。言。坂。内。而。あ。れ。る。も。と。云。う。う。う。お。う。ま。と。捕。ま。ひ
 る。と。申。す。内。儀。修。理。心。昌。孝。進。出。て。日。争。是。由。り。れ。る。を
 盡。ん。乎。け。修。め。て。さ。ま。ま。館。の。滅。亡。さ。う。け。而。我。が。命。も

咳

源氏物語卷之九

十三

中^{みづか}へ^ん。天^{あま}乃^のを^を忍^{しの}ぶ^れの^い。食^く我^がを^は。法^ほの^合我^がを^排め^り
 ず。是^この^味方^{かた}も^も又^{また}子^こ負^ひ死^し入^りま^まと^憐れ^めん^人に^義の^骨を^と
 せよ^とあ^らふ^人也^{なり}。佐^さ云^い公^{こう}の^骨威^いと^ん。尚^{なほ}館^たの^如く^も参^まり^し
 あり^し。東^{あづま}兵^{へい}法^{ほう}あ^どの^小城^{じやう}と^援え^りし^り。一^{いつ}日^{にち}又^{また}十^{じゆ}四^し日^{にち}の^おの^敷
 あ^らも^もあ^らふ^るべ^し。然^{しか}れ^ども^もあ^らふ^るべ^し。大^{おほ}倭^{やまと}人^{ひと}も^も是^こを^後に^ます^る
 法^ほ武^ぶ骨^{こつ}の^援え^を云^いま^す。然^{しか}れ^ども^も強^{かう}食^{じき}の^帥と^申す^るも^もあ^らふ^るべ^し。然^{しか}れ^ども^も
 然^{しか}れ^ども^も供^く候^{こう}又^{また}操^{そう}万^{まん}人^{にん}と^誅す^る。遂^{すなは}ち^は天^{あま}乃^のの^意を^承け^り。玉^{たま}家^け云^い
 びん^とを^承け^りあ^らふ^るべ^し滅^め亡^{じやう}の^謂れ^りの^道に^耳と^後に^聴く^べし。出^いづ^る
 粟^{あし}代^{しろ}ね^の傳^{でん}の^甲冑^この^所に^館も^も。狐^{きつね}狸^りの^捕と^あら^ふと^後に^あら^ふる^べし。
 が^如し。予^よ危^{あや}急^い及^{およ}ん^だ。惟^{ただ}傳^{でん}の^傳人^{でん}共^{ども}の^若と^後に^あら^ふ人^{ひと}先^まに^も
 玉^{たま}と^逃出^{にげ}。路^{ちよ}傍^{はた}又^{また}飢^うて^食と^をん^時也^{なり}。も^もめ^ては^忠を^思ふ^べし。

尚^{なほ}べ^し。初^{はつ}と^いふ^べし。所^{ところ}を^尋ね^りし^り。奇^き怪^{かい}と^思ふ^べし。迷^{まよ}ひ^の道^{みち}に^入り^し。

返^{かへ}答^{こた}せ^り。所^{ところ}を^尋ね^りし^り。奇^き怪^{かい}と^思ふ^べし。迷^{まよ}ひ^の道^{みち}に^入り^し。

相^あ互^{たが}に^大將^{しやう}將^{しやう}執^{しやく}。事^{こと}を^復た^する^べし。已^いに^事を^承け^りし^り。

皆^{みな}胸^{むね}下^{した}に^汗を^流す^る。然^{しか}れ^ども^も。尚^{なほ}館^たの^如く^も参^まり^し。

彼^かれ^が一^{いつ}云^いふ^も復^{かへ}せ^り。昔^{むかし}切^きり^し。倭^{やまと}乃^のも^も返^{かへ}す^べし。

答^{こた}へ^り及^{およ}ぶ^べし。一^{いつ}座^ざ具^ぐ足^{そく}て^見け^り。穴^{あな}山^{やま}梅^{うめ}雪^{ゆき}。系^{けい}集^{じふ}人^{にん}傳^{でん}

所^{ところ}を^執成^{じやう}。又^{また}尚^{なほ}館^たの^如く^も参^まり^し。

然^{しか}れ^ども^も。佐^さ云^い公^{こう}の^骨威^いと^ん。尚^{なほ}館^たの^如く^も参^まり^し。

時^{とき}に^終け^り。彼^かれ^が四^し人^{にん}の^長長^{ちやう}共^{ども}。佐^さ云^い公^{こう}の^骨威^いと^ん。

尚^{なほ}館^たの^如く^も参^まり^し。

必^{かな}ず^も安^{やす}ん^だ。今^{いま}乱^{らん}世^{せい}の^君也^{なり}。他^たを^思ふ^べし。

後

485



知れぬ所ありんば。以後、何の事もせらる。諸軍、或はと勵中へ死
やと。云語と傳へて、云けしむ。傍に、四臣の凍とむと思へ
まざるものうら。乃、長坂が利口は、膝まされて。是より、
服をこそ。武田家滅亡の基とありけしむ。

内、長坂、豊、罵、倭、臣、事

凡、事、縁、則、主、不、勝、則、廢、言、不、定、則、不、踏、事、未、定、則、不、困、行、未、定
則、不、疲、道、未、定、則、不、窮、と。されば、故、武田、信、玄、ハ、古今、弱、歩、と
稱、せ、れ、名、が、お、り、し、う、ら、な、生、の、因、也、と、來、年、の、合、戦、の、後、定
と、今、年、より、四、臣、の、事、は、今、も、試、を、ら、し、む、り、し、む、今、傍、に、が
代、又、至、て、也、信、玄、在、世、の、如、く、も、四、人、の、士、隊、が、合、會、事、を
受、け、ら、す、天、正、二、年、十、月、廿、八、日、山、縣、三、良、と、傍、射、昌、系、が、宿、不

に、就、明、天、正、二、年、亥、の、年、中、の、後、定、の、評、議、者、と、し、と、信、州
指、島、の、城、代、と、る、傍、更、は、信、玄、の、房、國、海、津、の、城、代、と、る、長、坂、正、
昌、信、と、只、兼、倫、の、城、代、内、長、修、理、正、昌、也、甲、只、那、内、の、城、代
小、山、田、信、玄、傍、射、信、彦、と、外、系、隼、人、信、昌、傍、射、合、會、而、こ、よ
評、議、の、席、也、と、着、け、る、然、而、も、長、坂、を、全、吾、入、り、釣、果、跡、は、大、炊
か、傍、資、質、の、友、人、信、昌、傍、射、又、眼、近、と、も、鼻、と、う、け、密、に、又、敵、の、内、
也、と、蒙、ら、る、傍、は、ほ、の、め、り、し、て、は、軍、後、は、傍、出、ん、と、山、縣、が、者、不
へ、ど、推、系、あ、け、る、山、縣、と、は、む、る、傍、信、昌、也、思、ひ、し、け、ぬ
る、ら、れ、ば、は、又、面、と、り、合、て、む、け、ら、す、内、長、修、理、正、昌、也、ハ、
え、末、些、短、意、の、り、姓、の、り、け、れ、ば、傍、臣、人、が、推、系、と、ん、く
懸、兒、叔、弟、が、奉、勅、う、と、お、い、は、し、乃、は、長、坂、が、席、も、着、け、る、と、信、

がな。是とれ持以しりども。まう人役依の人とと踏て自分市
希又出て披露せしこゝろ一友も是を。土屋辰。系辰
乃助辰らなど。能受の人あり。傳又我ら乃不背世といふ
尚家長臣の名と蒙り。政勢と断る事切ら。金軍別を你
密する軍のの交徒。げ四人も加役の外同席あり。乃助
長坂洋液の邪磨り。早に疾立ちてと荒らる事速るけ。理
又壁を跡跡大炊かひ一云の返りあり及ぶ赤面と居りたる
に。流石奸偽物智の。長坂約案。魚取をとおげ。とと一膝と
と。然て。是の内反辰又の相合ざる市河とけありの者も
あゝ友人。是非ともよ。げ市河定の人教も加えり中さん云
心こそ然様も作ありぬ。先心を解く事か云肯とせぬ

だ。今日本友人推来ぬたさゆの。故任云公の市心中の
各能市なまそぬけまども。尚被傍頼公の市心故の志と
知のよほしければ。これらも要中速。且内と傍頼公の志
契志の程も知せて中法をいらんぬ。又傍未始ざる以承
に推来ぬ志。畢竟忠義とながらぬ。或と外外の一云よ
ゆらひのこそ。世もふりくとと。内反昌考考も取に傍頼公を
も。傳去天竺の市心もつた。佐云公才四の市心をれば。我ら如
の者も。市心も遂程ごと市心賢と知ども。大抵は推恩と仕
能に之。市心も今。け昌考も理を攻られぬ。云下も春つたれ
換りたぬ。辨方も任せと云完といども。後ととも被の市心
と引こそ。出頭面す若く人とを。能辱しめんことを

る場佐房。修りよ乳の毎よやむらん。内庭と宮て回。夫内庭
版も些氣短又是い。先中版やあらん。小城とも修り。大方生
城致しりべ。甲府は兵をあらう少くは。何是よ内庭を
後よりい。又約果先如き。平生も君は思ふくは。勝れ
公の内庭あり。解知くまらん。そ謂をたあ。もあは依て
先しけ約果。そ謂く。有ともはあ人と云。長坂又對い
備子。敵の思右の月ごん如何。あ友と云。そ何約果。些心
と慰。されば。勝れ公の内庭。中。末夫早と。思軍と。尾法
意の同又出。小善家と。近玉の強お對。十五一生の
合然と。遂。勝致と。一。又。變あらん。との。兵入。あて。世と云。る
内庭。あ。亦。兵。夫。早。又。あり。唯。今。の。云。が。勝。れ。公。の。内。庭。を

と。そ。う。す。べ。長。坂。約。果。執。と。つ。野。執。が。若。の。版。心。又。入。て。狂
と。せ。なり。何。率。武。田。の。家。と。亡。己。が。本。意。と。連。ん。と。巧。の。あり。
い。ぞ。千。謂。と。清。う。ま。せん。身。も。内。庭。な。れ。ども。内。庭。家。小。族。甚
古。れ。執。の。い。が。そ。う。執。と。深。入。と。号。そ。う。執。の。が。古。良。我
後。の。迷。ん。と。怨。し。れ。共。遊。ま。そ。功。親。執。あ。ら。る。死。後
て。忽。と。露。顯。し。刻。先。君。そ。う。執。め。を。殊。戮。し。あ。ん。是。不。依。て。親
執。情。と。含。み。そ。恨。と。報。ん。と。い。若。さ。は。敵。よ。は。た。ま。ひ。て。無。殊
の。倅。然。と。そ。め。ま。の。也。夫。實。勝。れ。公。の。實。意。よ。い。何。れ。約
果。君。と。吐。び。と。早。く。ま。め。ま。よ。と。云。け。ま。ら。長。坂。双。眼。又
血。と。流。て。無。意。の。形。勢。面。を。あ。わ。ら。ん。れ。け。ま。ご。も。流。石。又
四。后。の。旁。威。又。怖。き。是。い。内。庭。版。よ。は。ま。ま。法。外。の。云。を。と

世間と偏ひ。身の恥辱とも知らず。ふ我の爲又一子と申り。これ
 何の面目もて世又交る事。そ身老ぬまは。眼もねぐし
 速く閑居の地とあり。仏たとも管い。眼ももせんと
 ふ我もあはれられた。換のすあは心もつら。猪殺公の血
 盛のた跡。跡は付。あが練云とり。とれ。念法の合致と進
 別高家古光の功。は共と終云す。是皆絶縁を念んが為の巧
 多。又その好倭と止く。二嶽の境と撞と。息もたて。有る
 巴。そ何約果。夫は怒り。先刻より無量の云後。老人の長き。はこ
 思ひ。徳もこれ。付と。各ち。あは。せて。意外。玉。柄。の。云。わ
 と。何。の。ぞ。唯。今。の。一。云。へ。領。地。の。土。民。あ。ど。と。を。云。を

凡成の已二言

中されい。思見源入良候へ。己が罪科。とん。誅。然。又。違ひ。あ。と
 あ。れ。だ。争。事。二。代。の。主。君。又。對。し。憤。と。會。い。り。ん。叙。又。千。件
 つ。う。又。素。と。懸。と。思。い。ろ。と。も。同。能。又。事。七。旬。又。向。く。と
 畜。生。又。比。せ。り。ろ。う。の。情。は。對。果。と。死。べ。け。ま。ど。も。素。君。又。持
 づ。る。所。の。命。さ。れ。べ。私。の。送。恨。又。掩。は。仕。ら。ト。只。由。る。の。前
 あ。て。深。死。ん。こ。と。忠。臣。の。勲。又。い。く。全。へ。君。の。由。を。な。り。より
 外。又。け。ま。へ。何。と。申。され。ても。只。と。懸。思。の。拘。と。さ。す。ら。又。如。代。と
 分。列。都。又。我。辭。で。程。悠。然。と。して。立。改。る。べ。れ。事。を。無。と。り。ん。て
 内。反。ま。し。く。憤。り。古。狛。ゆ。が。能。も。各。舌。を。震。ふ。の。う。ま。係。如。の
 ふ。君。の。倭。人。大。欲。吾。乃。の。者。何。ぞ。君。の。由。を。な。る。べ。れ。か。と。辱
 志。あ。られ。ても。程。は。あ。は。れ。思。は。れ。ま。ど。と。云。と。り。志。え。頬。と。振。て

凡成の已二言

あつてふい

441

跡部 長坂 面辱 被る 圓

川我力巴二宮兩家之山



あつてふい



列傳功言二及肩者上九

け色。休こそ兄の工後下総守と。佐序公も付ふせられ。
 も急没収せられしを恥とも思ふ。佐序公も、追討煙
 霧を作して。今、内後修理と名乗。二百五十騎のおもひ
 何よりといふる武勇を顯し。如何中の忠義をみる。
 せんと。己より刀をよびて我を討。内後昌忠も其れを
 仍仍の世人の知れあり。語及及を。己より此の者も内
 後が身と當も汚らわし。お殺てね。世と刀をせ。鞘がみ
 又歩んことを。馬場。山嶽。宮坂の三人。其れを
 と置れ。長坂と。京集人。佐。小山田。左。右
 より。引。出。て。彼。が。宿。所。を。送。り。返。し。け。り。
 追。討。大。旗。を。
 追。討。し。て。逃。取。り。し。る。お。依。り。し。て。稍。軍。隊。を。及。び。け。り。長。坂

凍

新

替

約軍の己が宿所を攻るや否。連々敵は防より。勝れぬ。
 近く膝折して。嗚呼。尚家。大。身。の。者。共。の。心。は。天。魔。鬼。が。入
 度。て。若。を。滅。さん。と。計。ら。り。と。且。出。し。て。涙。を。し。せ。び。作
 小。あ。と。と。ぞ。泣。め。り。ふ。ぞ。勝。れ。是。を。見。て。具。足。て。曰。入。及
 何事ぞ。予。子。細。と。云。せ。疾。く。と。り。け。ま。せ。約。軍。稍。候。を
 拭。ひ。と。つ。れ。と。次。作。畏。て。云。換。若。は。先。若。の。遺。命。を。崇。め。ん
 て。忠。義。も。存。せ。ざ。り。者。共。よ。る。分。の。而。後。と。揚。り。今。一。味。の
 主。と。成。め。ん。が。あ。り。と。者。又。出。し。て。忠。功。武。勇。の。名。を。
 只。己。が。命。を。而。も。大。切。と。存。矣。底。の。一。ヶ。所。も。蒙。ら。ん。あ。と。を
 怖。き。若。より。軍。役。の。所。沙。汰。あ。り。練。兵。を。し。て。内。より。
 降。と。蹙。一。日。も。も。安。み。よ。し。て。横。柄。を。働。と。面。目。又。仕。は。是。と

442

中も。若市弱年又市屋にん。彼四人の者共。悔り申す。居て
い。也。形。ま。て。さ。り。い。ら。後。も。あ。い。か。く。又。向。ふ。て。い。の。密。部。有。款。の
ま。び。れ。と。絞。し。若。と。亡。し。己。ら。永。代。の。城。主。と。あ。り。と。計。救。い
も。圖。を。く。い。既。又。先。若。佐。云。云。小。田。家。と。身。指。と。起。し。あ。ふ。と
い。ども。又。徳。國。岩。村。劫。の。大。寺。そ。外。些。の。郡。領。より。市。子。に。入
ざ。り。と。若。市。家。督。市。屋。を。て。より。小。城。あり。と。い。り。市。屋。先。徳。を
十。八。ヶ。城。と。僅。の。ア。り。又。攻。取。あ。ひ。今。あ。て。い。大。岩。市。於。と。成。い。ひ。さ
高。美。言。天。の。城。を。攻。落。し。ん。村。也。彼。四。臣。の。室。い。合。戦。に。在。り
也。と。口。を。搦。て。云。上。の。ひ。と。を。れ。と。い。市。屋。室。ま。ま。さ。ば。後。云
么。の。市。代。の。通。つ。た。今。又。む。い。と。岩。村。の。城。一。ヶ。所。斗。あ。て。東。越。も。ね。あ
ら。ば。款。する。べく。い。と。市。屋。強。弱。す。い。入。及。つ。市。屋。強。云。云。居。て。を

要

前代も。未。市。子。に。つ。づ。る。不。く。皆。市。屋。と。存。す。り。い。恐。多。命。一
換。り。て。い。れ。た。若。の。市。屋。中。と。初。劫。也。未。が。なる。旨。と。何。の。も
符。節。を。合。せ。つ。る。換。り。市。屋。い。そ。上。は。つ。く。約。果。が。案。を
あ。い。若。へ。上。換。入。及。ぬ。の。子。美。の。格。式。又。似。せ。あ。ひ。て。い。実。子
と。換。入。及。ぬ。の。合。戦。の。風。儀。い。は。じ。り。り。つ。る。軍。と。似。つ。る。生。と。なる
城。を。解。し。て。退。あ。い。と。上。古。も。例。お。く。未。代。も。む。ほ。ま。さ
と。沙。汰。仕。い。ま。し。る。又。先。若。佐。云。云。も。是。と。落。あ。い。ご。り。き
若。の。能。も。謙。佐。の。子。美。又。市。屋。と。似。せ。あ。ひ。於。て。上。と。あ。い。出。あ。い。と。も
劣。り。あ。い。ご。り。也。と。世。う。の。孫。等。を。て。市。屋。の。い。也。と。辨。又。似。せ。と
云。け。れ。ば。傍。形。亦。融。ま。て。汝。が。云。如。く。四。人。の。者。共。の。故。佐。云。云。乃
遺。命。と。守。り。只。甲。子。又。勢。而。時。節。を。侍。べ。と。類。又。練。云。云。と

悔

